

扇大臣閣議後記者会見の概要（平成15年1月10日）

平成15年1月10日（金）

9：20～9：41

於：国土交通省会見室

閣議・閣僚懇

おはようございます。今日は閣議と閣僚懇のご報告ですけれども、総理がロシアにおいてになってますので、福田総理代理で開催をされました。

- 中略 -

それから私の方から少し、国土交通省関係のことを御報告させていただきたいと思います。今日一部の新聞等々に出ておりましたけれども、御存じの通り、東京の外環、少なくとも私が、1970年から凍結されておりました、これを視察をいたしまして、一昨年1月16日、石原都知事が御一緒に行ってくださいまして、33年ぶりに現地に入らせていただきました。33年間1度も当時の建設大臣と言いますか、が行ってなかったということも不思議だなとは思いますが、それほどかかって一步も前進をしておりませんでした。で、これを環状道路なんですから、正に環状道路として役に立たなければ、これは絵に描いた餅でございますので、少なくとも私、33年ぶりに現地を見せていただきまして、もうそのときからこれはこのままではいけないという気持ちになっておりました。ただ、それ以来ですね、協議会等々地元、それから反対の皆さん方も御理解頂くようにということで、協議会を立ち上げて御論議頂いておりましたけれども、一昨年、御存じのとおり大深度地下法、これは12年5月に成立しましたけれども、一昨年から、一昨年4月からこの大深度地下法が施行されております。これは皆さん御存じのとおりでございます。改めてこういう法律を作って、今まで、一昨年4月から施行されてますけれども、まだ、大深度地下法を利用した施策というものがゼロでございます。それで、今回私はこの大深度地下法を利用いたしまして、迅速に環状道路足りうべく前進さそうということを、全部大深度でまいます。全部地下に潜ります。そういうことで、反対されている皆さん方

もいらっしゃいますし、なるべく御迷惑をかけないようにということで、こういう法律が通った第1号として、私はこれを実行していきたいというふうに思っております。東京都とこの計画の進行のために打ち合わせに入っております。このトンネルは御存じのとおり16キロでございますけれども、大深度地下になりまして、今まではコスト縮減をしようということで、皆さん方の御理解を得ようとは思ってございましたけれども、トンネル方式でどういふふうにかコスト縮減ができるかということで、トンネルを少し、3車線は3車線なんですけど、両サイドの、少しコンパクトにしようと、トンネル自体をですね、両サイドを少し狭くして、安全に支障を来さない程度のトンネルの幅を少し縮小いたしまして、これをコンパクトにすることによって3,000億円のコスト縮減が図られます。それからキロ当たりだいたい1,000億と言われておりましたけれども、こうすることによって、だいたい700億円でできるのではないかと。それから工事も大深度でございますので、早くできますので、15年と言われておりましたけれども、それを半分にしたいというふうに考えております。で、これも後は東京都が都市計画を決定されることでございますけれども、私といたしましては、33年間も計画されたまま放置されていたというのは正にこれは先進国らしくない話でございます。ただ上の皆さん方に御迷惑をかけないように大深度地下法の第1号として、これを実行していくと、しかもコスト縮減、そして早期完成、これを図っていくために実行していきたいと思っております。これでかなり渋滞を緩和し、なおかつ利便性、経済効果を上げる。そしてなおかつ環境のCO2排出を一般の住民の皆さん方に迷惑をかけないように図っていくということで、これを実行していきます。後は東京都と話し合いと共に、また地元で作りました有識者会議、これも最終提言が昨年11月に頂いておりますので、それに関して、実行に移すということで、早期完成、そしてコスト削減を図るといふことのでいきたいと思っております。で、1月15日にですね、連休明けでございますけれども、関係者の皆さん方、沿線の区市長さん、区長さん等々の意見交換会をもちたいと思っております。4市3区でございますけれども、これで話を進めていきたいと思っておりますので、この件を御報告申し上げます。

- 以下略 -

質疑応答

(問) じゃ幹事から1点お願いします。この外環の話ですが、地元の方への説明はこれからということなんでしょうが、これで地元の方で理解を得られるというふうにお考えでしょうか。

(答) 33年放置してね、もう理解を得られなきゃ、限度ですよ。21世紀に、20世紀の私はこれ負の遺産だと思ってます。美濃部都知事の時からの、これは本当に残念な極みでございますし、これができてればもっと、私は渋滞もなかったと思うし、経済効果も上がってますし、このできてないことの経済の損失、そういうものは大きいと思ってますし、またそれによって渋滞してる住民の皆さんも逆に被害を、逆に受けてらっしゃると思ってますので、これを大深度地下法によって、することによって、被害を少なくし、環境的にも皆さん方に御理解いただけるようになるであろうと。またなるべく環境に影響を与えないような方法ということで、大深度地下法の第一号ということで取り組みたいと思っておりますし、これが大都会の中の交通網としては私は今とり得る中ではこれが一番最大であろうということで、地元の皆さんの御理解をいただきたいと思ってます。

(問) 都側は基本的に了承というか、合意してるっていうお考えでよろしいわけですか。

(答) そうですね。私元々1月に、一昨年ですけれども外環見に行った時も、石原都知事が行こうよというお誘いを受けて、もうねっていう話がございます、これは私が石原都知事と両方で連携しながら現地を見て、もういつまでも凍結をするべきではないということでございます。そういう気持ちになったのが現地に行った結果でございます。